

この号は、理事・監事・評議員、職員、保護者のみなさんにお届けします。

「あいあい通信」改め

からはし通信

2020. 4. 24

No. 6

社会福祉法人 唐橋福祉会

編集兼発行人 理事長 下村つとむ

コロナ対策

三日月知事に緊急の要請

感染リスクの高い保育現場に今すぐ支援を

コロナ対策について三日月大造知事に緊急の要請が4月23日に行われました。これは沢田たかこ前県会議員の仲介で行われたもので、私も参加して保育現場の要望を強く訴えました。

要請の中心は、PCR検査の拡大実現。他県で行われている事例を示して、滋賀でも早期に受診できる体制実現を求めました。知事は申し入れの趣旨は全く同感であり鋭意取り組んでいるが、検査を担う人材の確保が困難であると苦しい状況を述べました。

△

私（下村）は、次のように保育現場の状況を述べました。

「幼稚園や学校は全面休園・休校しているのに保育園は休めない。重要な社会的役割を担っているからだとして保育を継続している。しかし保育園はきわめて感染リスクが高い。「三密排除」には程遠い。子どもと密着してこそ保育は成り立つ。しかし、今すぐ保育園に感染防止対策を取らないとクラスターを発生させる恐れがある。幼い子どもの命を危険にさらす。国は連日のように通達を出す、効果的な支援はない。わずかに、職員全員に2枚のマスクを配布した。年度末ギリギリに各園50万円の緊急補助金を発表した、感染防止に効果的なものを3月31日までに確保し、支払いを完了するのは困難だった。」と述べて、次の要望事項を挙げました。

1、民間保育園に、感染防止のために自由に使える、県独自の緊急補助金30万円を。

(領収書だけで処理できる使い勝手の良いお金を)

2、希望する保育所職員がいたらすぐにPCR検査を。

3、アルコールを各園に2リットルずつ現物配布を。

4、欠席した子どもの食費返還に県の助成を。

これに対して三日月知事は、苦闘する保育所現場の状況に敬意を表しながら、「資機材の交付を進めたい」と述べました。(資機材とはマスク、手袋、ガウン、アルコールなど)

突然の申し入れだったため、具体的な回答は少なかった。しかし、コロナ対策で日夜忙殺される知事にしっかり保育園のことも認識してもらう機会となったことは確かです。

家庭保育のご協力 ありがとうございます。

特別な事情のある2割弱の子どもたちの保育をしっかりとやりながら、職員は交代で、感染リスクを避けて、自宅でテレワークをしています。